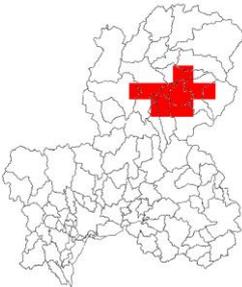


アオイチゴツナギ		<i>Poa alta</i> Hitchc.	情報不足
			イネ科
選定理由	もともと生育地が限られているうえに個体数が少なく、草地環境の減少が種の存続を脅かしている。	写真(岐阜県博物館) 標本 	
形態の特徴	稈は直立し、高さ30-60cm。葉身は長さ4-12cm、幅1.5-2.5mm。花序は、柄が長く直立、長さ6-15cm、枝は短くてざらつく。小穂は2-3小花からなり、長さ3.5-4.5mm。		
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は6-8月。岐阜県においては、亜高山帯の林縁や草地に生育する。		
分布状況	北海道から本州近畿地方に分布し、朝鮮から中国、サハリン、千島に分布する。岐阜県では、県北部でごく稀に見られる。		
減少要因	草地環境が減少していることが減少の要因。花が地味であるため、存在自体が認識されないまま、森林の伐採や林道の改修、スキー場やゴルフ場の造成などによって自生地が失われている可能性がある。		
保全対策	草地環境の維持などの保全対策。道路拡張やスキー場の造成などによる環境の改変は本種の保全に大きな脅威となる。		
特記事項			
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993 長野県植物誌 信濃毎日新聞社 1997		

文責:福岡義洋